東京　明治十七年十二月廿九日　月曜日　第八百五十一號　日曜日休刊　定價金三錢

公報

○太政官布告第三十一號

火藥取締規則別冊ノ通制定ス

但從前ノ成規中此條則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス

右奉　勅旨布告候事

明治十七年十二月廿七日　太政大臣公爵三條實美

（別冊）　内務卿伯爵山縣有朋

火藥取締規則　陸軍卿伯爵西鄕從道

第一章　總則　海軍卿伯爵川村純義

第一條　凡火藥劇發火藥（綿火藥、ナイトログリセリン、ダイナマイト、雷汞、其他劇發質ノ物品）ハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス但烟火マッチノ類ハ此限ニ在ラス○第二條　火藥類（火藥劇發火藥ヲ云フ）ノ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ願出免許鑑札ヲ受ク可シ但營業者ハ一管内ニ十五人以内トス○第三條　火藥類ハ營業者ニ限リ陸軍海軍兩省ヨリ其貯蔵品ヲ拂下ク可キモノトス○第四條　管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ於テ火藥類ノ檢査ヲ必要ト認ムル時ハ營業者タルト否トヲ問ハス警察官ヲシテ之ヲ檢査セシムルコトアル可シ○第五條　戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍卿海軍卿ハ火藥類ノ拂下ケヲ停止シ内務卿ハ其賣買運般ヲ停止スルコトアル可シ○第六條　火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日沒後ニ於テ賣買運般其他荷造等ヲ爲ス可カラス

第二章　賣買

第七條　營業者ハ毎月買受カタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ（證書アレハ之ヲ添ヘ）翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ○第八條　營業者ニ非スシテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其賣渡證書ヲ取リ置ク可シ○第九條　營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ限リ火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス但十六歳未滿若クハ白痴風癲ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス○第十條　火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲メニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍人ノ射的用ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス　小銃用、火藥三百目、雷管五百個　船舶設備銃砲用（大砲一門ニ付火藥五十發分導火管類七十個）（小銃一挺ニ付火藥白發分雷管白五十個）、烟火製造用、火藥五貫目　坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ヲ買受ケントスル者ハ其官廳及ビ種類數量並ニ使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之レヲ營業者ニ渡ス可シ○第十一條　營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可證ヲ受取リ火藥類ヲ賣渡ス可シ但第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス○第十二條　營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ（證書アレハ之ヲ添ヘ）翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ　（以下次號）

○海軍省達乙第貳拾四號　府　縣

海軍下士以下兵役満期ノ者詮議ノ次第有之當分ノ内免役差止候條爲心得此旨相達候事

明治十七年十二月廿七日　海軍卿伯爵川村純義

○工部省告示第十五號

神奈川縣横須賀電信分局ヨリ同縣浦賀ヘ電線架設分局ヲ設置シ來ル明治十八年一月一日ヨリ開局書信料ノ儀ハ左ノ通ニ仮制此旨告示候事

明治十七年十二月廿七日　工部卿伯爵佐々木高行

一種賣分局ヨリ開局横須賀ヘハ和文一音信料金六錢歐文金二十五錢ヲ拂フ〜シ

一東京其他各分局ヨリ浦賀ヘノ和歐文書信料ハ横須賀ニ同

叙任

○明治十七年十二月二十七日

敍從三位　正四位勳一等伯爵

仝　仝　仝　